

第 5 問 (20 点)

製品Hを量産するT工場では、標準原価計算制度を採用しパーシャル・プランを用いて記帳している。次の[資料]にもとづいて、(1) 答案用紙の標準原価カードを完成しなさい。また、(2) 原価要素別の総差異、(3) 完成品換算総量に対する直接材料費の標準消費量、(4) 完成品換算総量に対する直接労務費の標準直接作業時間を計算しなさい。

[資料]

1. 標準と予算データ

- 直接材料費の標準消費価格： 2,000 円/kg
 - 直接材料費の標準消費量： 10 kg/個
 - 直接労務費の標準賃率： 1,500 円/時間
 - 直接労務費の標準直接作業時間： 5 時間/個
 - 製造間接費予算（年間）： 57,600,000 円
 - 正常直接作業時間（年間）： 24,000 時間
- (注) 製造間接費は直接作業時間にもとづき製品に標準配賦している。

2. 生産実績データ

- 当月製品完成量： 380 個
 - 月末仕掛品量： 20 個 (0.5)
- (注) 直接材料は工程の始点で投入されている。
() 内は加工進捗度を示している。
月初仕掛品はなかった。

3. 当月の実際原価データ

- 直接材料費： 8,120,000 円
- 直接労務費： 3,040,000 円
- 製造間接費： 4,638,690 円

(1) 標準原価カード

直接材料費	2,000	円/kg	×	10	kg/個	=	() 円/個
直接労務費	()	円/時間	×	()	時間/個	=	() 円/個
製造間接費	()	円/時間	×	()	時間/個	=	() 円/個
合計							<u>() 円/個</u>

(2)

- 直接材料費総差異 円 ()
- 直接労務費総差異 円 ()
- 製造間接費総差異 円 ()

() 内には、借方差異ならば借方、貸方差異ならば貸方と記入すること。

(3)

kg

(4)

時間